

吉岐市立霞翠小学校の取り組み

霞翠小学校では、「**かんしゃして食べよう・すききらいなく食べよう・いいこといっぱいおいしい食事**」をテーマに、よりよい食生活を求める子どもを育成する食育指導の在り方について研究し、実践してきました。

ランチルームでの全校給食

霞翠小学校は、吉岐市内で唯一ランチルームがある学校で、毎日、全校の縦割り班でなかよく給食を食べています。高学年の子どもは低学年の世話をすることでリーダー性が育ったり、低学年の子どもは高学年を見習って準備や後片付けをしたり、残さず食べるように努力したりしています。

毎日の食前・食後の楽しみタイムに工夫した活動をしています。楽しみタイムは、正しい食事の在り方や望ましい食習慣を身に付け、好ましい人間関係を築くことをねらいとしています。内容は、月曜日は「今週の誕生日の人紹介」(食前)、火曜日は「食育クイズ」(食後)、水曜日は「先生や子どもの話」(食後)、木曜日は「栄養士の先生の話」(食前)、金曜日は「食育クイズの解答&解説」(食後)です。「今日は何の日かな?」とみんな楽しみにしています。



全教職員による食育

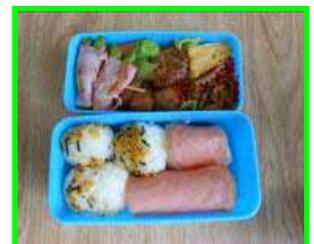
食育は、全教育活動の中で行うものですが、一部の担当者だけがアイデアを出すのでは、活動が広がりません。そこで、霞翠小学校では、全職員の各担当の分野で食育につながる活動ができないか、考えました。音楽担当者は、「今月の歌」に、食育に関する歌を取り入れました。図書担当者は、図書室に「食育コーナー」を設け、その時期の学習に合わせた本を展示しました。作品応募担当者は、食に関するものを積極的に紹介しました。養護教諭は、保健指導・保健だより・保健室の掲示に食に関する内容を積極的に取り入れました。

栄養教諭と連携した授業の実践

全職員が、栄養教諭と連携した授業を計画的に行っています。食のプロである栄養教諭の専門性を生かした場を効果的に設定することで、子どもの食に関する意識が高まり、食生活の改善・向上につながるとともに、集中力が増し、学ぶ意欲の向上にもつながりました。また、それぞれの学年や教科で必要な資料を作成し、市内の他の学校でも活用しました。

家庭や地域と連携した活動

P T Aの活動を食に関する内容にすることで、家庭の理解が深まりました。P T A親子研修会では、早寝早起き朝ごはんについての学習を、各学年の親子レクリエーションでは子どもが育てた野菜を使った調理実習やおやつ作り、食器作りなどを行いました。親子で楽しく取り組むことで家庭での実践にもつながりました。年に2回実施したおにぎり弁当の日の取り組みには家庭の理解・協力が得られ、子どもが自分の食事について考え、発達



段階に応じて弁当づくりに取り組むことができました。



地域のヘルスメイトさんに協力してもらい、子ども対象に特産品の吉州豆腐作りや、保護者対象に季節の野菜を取り入れた朝食作りなどを実施しました。また、子どもの米や大豆などの栽培活動には農協青年部に協力していただきました。このような体験をとおして吉岐の食文化を知ったり、食の安全・安心について考えたりすることができ、地域のよさが再発見できました。